

## 22-4-1

### 経皮投与製剤 FG のミッションと活動計画

○杉林堅次<sup>1,2</sup>、東條角治<sup>1,3</sup>、寺原孝明<sup>1,4</sup>、大谷道輝<sup>1,5</sup>、徳留嘉寛<sup>1,2</sup>

(<sup>1</sup> 経皮投与製剤 FG、<sup>2</sup> 城西大学、<sup>3</sup> 九州工業大学、<sup>4</sup> 久光製薬、<sup>5</sup> 東京通信病院)

経皮投与およびその製剤化は、外用医薬品のみならず化粧品を考える上でも欠かせない技術分野である。本 FG（フォーカスグループ）では大学（薬学・薬学以外）研究者、製薬企業研究者、病院薬剤部研究者、さらには化粧品企業研究者など、様々な分野で活躍している経皮投与製剤研究者を集め、現在と今後の経皮投与製剤の理論的かつ実際の側面を検討し、学会員にフィードバックして、日本薬剤学会における経皮投与製剤研究をさらに活性化することを目的として設立した。加えて、より広い視野に立って、医学・医療領域や工学領域と連携を強め、経皮投与製剤の新しい展開に取り組む。特に、初年度は、物質の経皮吸収と経皮投与製剤の最新動向を把握することを目的に、以下のことに着目して活動する。

- (1) 世界の経皮投与製剤の開発状況とそれに関する科学技術情報の共有化
- (2) 医療現場での経皮投与製剤の問題点の抽出と解決
- (3) 化粧品開発の現状とそれに関する科学技術情報の共有化
- (4) 経皮投与製剤と化粧品に関する新規展開と開発研究

本年度は薬剤学会期間中を含め年数回の FG 委員会の開催を予定し、年度末までにミニシンポジウムの開催を検討している。経皮投与製剤は今世紀に入って様々な分野で一段と注目されている。また、機能性化粧品の議論も高まっている。経皮投与製剤に関心のある日本薬剤学会員は本 FG に参加いただき、活発な議論に加わっていただきたいと考えている。